



松本工業株式会社代表取締役社長
松本茂樹

「経営」と「態勢移行訓練」

私は中小企業の社長です。ちなみに日本に中小企業は420万社あるといわれています。全企業の実に99.7%が中小企業ということになります。従って420万人の中小企業の社長が存在していることになります。私もその一人という訳です。

厳しい経済状況の中で、420万人の社長は日々悪戦苦闘しながら社員の雇用の安定と生活の向上を図り、お客様に対しては顧客満足を満たす製品やサービスを提供し「会社という船」の舵取りをしています。その舵取りを誤ると、船が座礁や沈没することもあります。世間では「生き残りをかけて」とよく言いますが、私は「勝ち残りをかけて」と言います。なぜならばビジネスの世界では、引き分けとか現状維持はないからです。極端な言い方をすると、勝つか負けるかしかないと思っています。

舵取りをする「船長」は大変な責任があります。私もその責任感で自律神経がおかしくなることがあります。その対策として、私はなるべくたくさん心配事や予測されることを書き出して、その対策を考え、実行し解決するまで、その項目を残し、思考錯誤し行動し続け、心配事の項目がゼロになるまで行動をやめないようにしています。

その心配事を解決するのに欠かせないのが、正しい情報の収集と分析及び活用だと思ふのです。

面白いデータがあります。2006年サッカーワールドカップを自国開催したドイツは3位に終わり、国民の大きな失望をかってしまいました。そこでドイツはIT企業と協力して、1試合当たり4000万件のデータを収集し勝つための方策をみいだしたのです。彼らも「経営」と同じ、情報の収集、分析活用で「勝ち残り」をかけて、実行した訳です。

そのデータ4000万件の成果は、「選手がボールを保持している時間を最小化する」戦略となり、2006年のドイツの一人当たりのボール保有時間が2.8秒から2014年には1秒を切るスピードのあるパスまわしのサッカーと変身し、対戦相手を翻弄しついに8年後の2014年大会の優勝まで導いたとされています。

情報は実行を伴う「行動」で初めて成果を出していくものだと思います。わが社では「成功の反対は失敗ではない。それは何もしないことだ。」という社訓があります。

実行し行動して失敗したら「航路」を変更すればいいじゃないかと思うのです。

先日、福岡県の築城にある航空自衛隊築城基地での「態勢移行」訓練を早朝（5時過ぎ）に見学する機会があり、その整然としたスムーズな訓練の段取りや、またそのスピード感や緊張感には目を見張るものがありました。

有事を想定したその訓練を見学させて頂き、感謝の気持ちでいっぱいになりました。皆さんのお蔭で「枕を高くして眠れる」と思いました。

また、訓練を見学して思ったことは、我々経営者が思い描く「経営上の心配事や想定外」には具体的な対処方法についてのマニュアルがあるわけではないように、自衛隊のその対処方法には基本的な行動規範はあるにせよ、具体的な対処方法についてはシナリオはなく、最終的には現場の判断によるところが多いと感じました。正しい現場の判断力を高めるにはたくさんの経験が必要だと思います。1年に何度も行う訓練をマンネリ化にならずに緊張感を保って行動される皆さんに崇敬の念を抱きました。

かまびすしい世間にあって揺るぎのない精神で黙々と任務にあられる皆さんに心より拍手を送りたいと思います。

2015年11月30日



